

## 異文化体験記

◎和歌山県職員による「異文化体験記」です。

皆さんこんにちは。日本もいよいよ夏休みに入り、旅行シーズンが到来していますね！夏休みを利用してサイクリングに行く、という方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

和歌山県では今「サイクリング王国わかやま」を掲げ、ブルーライン（サイクリングロード）やサイクルステーションの整備が進むなど、自転車で旅しやすい環境が整ってきています。

今回は元祖自転車王国・中国から、現在の自転車事情をご紹介します。

中国といえば、通勤時間帯には道路を埋め尽くすたくさんの自転車！というイメージをお持ちの方も多いかもかもしれません。ですがそんな光景も今や昔。経済成長に伴い自動車が激増、大気汚染や慢性的な渋滞を引き起こすなど大きな社会問題にもなっています。そんな中、エコで健康的で経済的な自転車が、今また脚光を浴びているのです。

最近中国で急速に普及したのがシェア自転車です。これは日本の一般的なレンタサイクルとはちょっと違います。専用のステーションはなく、シェア自転車は、街中のいろいろな場所に置かれて（乗り捨てられて）おり、携帯の専用アプリをダウンロードして初期登録を済ませておけばすぐに利用でき、電子決済なので現金も要らず、どこでも自由に乗り捨てが可能、と手軽で大変便利です。

私が中国に赴任した2015年当時、このような自転車は全く見かけませんでした。しかし2016年の後半から急速に広まり、今や中国各地の街角で見られるようになり、あっという間に市民権を得てしまいました。

参考に、私のいる青島で一番目にするシェア自転車「mobike（中国名：摩拜单车）」の使い方をご紹介します。

- ① まずは携帯に専用アプリをダウンロード。
- ② 初回登録を行い、電子決済でデポジットを預けます。
- ③ 自分の近くにある自転車を探します。（アプリのマップ機能でも探せます。）
- ④ 自転車を見つけたら、自転車に付いているQRコードを読み取りロックを解除。
- ⑤ 乗ります！
- ⑥ 使い終わったら、邪魔にならない所に止め、後輪についているロックをかけます。
- ⑦ ロックがかかると利用時間により料金が計算され、電子決済でチャージしていた金額から差し引かれます。ちなみに料金は30分毎に1元（約16.7円※）です。



青島で見かけるシェア自転車。アプリでQRコードを読み取るとロックが外れる。

ちょっとした移動をする時などには本当に便利で、たくさんの方が利用しています。

私が今住んでいる青島は、丘陵地で起伏が多く、自転車利用者が少ない土地柄だったのですが、そんな青島でも乗り捨てできる手軽さが受けて、自転車を利用する人がとても増えました。もともと自転車利用者が少ないので、道を走る自転車のほとんどがシェア自転車です。

繰り返しになりますが、青島にシェア自転車が入ってきてからまだ1年もたっていません。私が中国に来てから2年になりますが、本当に日々何かしらの変化が起こっており、驚きの連続です。新しいもの、より良いものを求めて、変化を恐れないところが、中国の経済成長の原動力なのだと改めて感じました。

※レートは2017年7月11日現在

〈宮本実穂（平成29年4月より中国山東海峽国際旅行社で研修中）